重点課題 3

「利益三分主義」に基づく生活文化の豊かな発展と次世代育成への貢献

サントリーグループは、事業で得た利益は「社会への貢献」にも積極的に役立てたいという創業者・鳥井信治郎の「利益三分主義」の精神を、世代を超えて受け継いでいます。創業以来、人々が心豊かに暮らしを楽しむことのできる社会の実現に寄与するため、「芸術・文化」「スポーツ」「社会福祉」の分野を中心に、「次世代育成」「被災地支援」「地域貢献」など多岐にわたる文化・社会貢献活動に取り組んできました。

そして、事業活動のグローバル化が進展する中、持続的な成長を目指すためには、お客様・お取引先・従業員をはじめとする世界中のステークホルダーとの共生を図っていくことがますます重要になっています。
サントリーグループは「社会活動方針」を策定し、その方針のもと、世界各地のグループ会社との連携をさらに深め、各地域の実情をふまえた活動をグローバルに推進していきます。

サントリーグループの文化・社会貢献活動

創業者・鳥井信治郎の「利益三分主義」の精神を受け継ぎ、豊かな生活文化と持続可能な社会の実現に寄与するさまざまな活動を展開

芸術・文化

- 公益財団法人を通じた支援
  - ・サントリー芸術財団
  - ・サントリー文化財団
  - ・サントリー生命科学財団
- 文化施設
  - ・サントリー美術館
  - ・サントリーホール
- 文化イベント協賛
  - ・サントリー 1万人の第九

スポーツ

- スポーツチーム
  - ・ラグビー部「サンゴリアス」
  - ・バレーボール部「サンバーズ」
- チャレンジド・スポーツ支援
- スポーツイベント開催
  - ・サントリーレディスオープンゴルフトーナメント
  - ・サントリードリームマッチ

社会福祉

- 社会福祉法人 邦寿会
  - ・高齢者福祉施設
    - ー高殿苑
    - ーどうみょうじ高殿苑
  - ・旭区西部地域包括支援センター
  - ・つぼみ保育園
- チャリティ活動
- 従業員のボランティア活動支援

次世代育成

- 芸術・文化を通じた次世代育成
- スポーツクリニックの開催
- 学校法人 雲雀丘学園の支援
- 無人島での自然体験を支援

被災地支援

- 東日本大震災復興支援
  - ・漁業の復興支援
  - ・未来を担う子どもたちの支援
  - ・チャレンジド・スポーツ支援
  - ・文化・スポーツを通じた支援

地域貢献

- 工場緑化の推進
- 工場見学の実施
- 全国事業所での地域貢献
- 各グループ会社の地域貢献

社会活動方針

サントリーグループは、「利益三分主義」の精神のもと、創業時から地域社会への貢献や芸術・文化・スポーツ活動、環境活動などに積極的に取り組み、社会・自然との共生を図ってきました。
そして「サントリーグループ社会活動方針」を策定し、その方針のもと、グループ各社とともにサントリーらしい活動を推進していくことで、グローバルにコーポレートブランドの価値向上を図っていきます。

サントリーグループ社会活動方針

サントリーグループは、創業者の「利益三分主義」の精神を受け継ぎ、社是にいう“生命の輝き”をめざして、人々が心豊かに暮らしを楽しむことのできる社会の実現に寄与するため、社会貢献に積極的に取り組んできました。
私たちは、企業理念「人と自然と響きあう」のもと、お客様に最高品質の商品・サービスをお届けするとともに、生活文化の豊かな発展と持続可能な地球環境の実現をめざし、グローバルに社会的責任を果たしていきます。

1. 「芸術・文化」「スポーツ」「社会福祉」「自然環境」の分野を中心に、
   次世代育成の見地と地域の実情をふまえた活動を、従業員とともに推進します。
2. ステークホルダーとの対話を重視し、連携・協働に取り組みます。
3. 従業員の多様なボランティア活動を支援します。

芸術・文化活動

サントリーグループは、豊かな生活文化の発展に寄与するため、サントリー美術館、サントリーホールの運営をはじめとして、多様な文化貢献活動に取り組んでいます。
また人文・社会科学の学術研究助成や、生物有機化学の研究活動の推進も行っています。こうした活動を通じて、次代を担う国際的人材の育成も目指しています。

公益財団法人 サントリー芸術財団

1961年開館のサントリー美術館と、創業70周年記念事業として1969年に設立された鳥井音楽財団（1978年にサントリー音楽財団に改称）。ほぼ半世紀にわたって芸術分野で積み重ねてきたこの2つの活動を、創業110周年記念事業として1つに束ねるとともに、21世紀にふさわしい新たなかたちに革新すべく、2009年に設立されたのが公益財団法人サントリー芸術財団です。
また、2012年4月よりサントリーホールの運営へと事業領域を拡大し、ユニークかつ多彩な事業を通じ、日本の音楽・美術のさらなる普及と発展への貢献を目指しています。

●サントリー美術館 ── 「都市の居間」を目指して

サントリー美術館は「生活の中の美」を基本理念に1961年に開館、日本の古美術を中心とした企画展と作品の収集活動を展開しています。2007年3月には六本木の東京ミッドタウンに移転。「伝統と現代の融合」をテーマ に建築家・隈研吾氏によって、設計された美術館には、ショップやカフェ、多彩なプログラムを開催するホール、茶室なども整っています。現在は、ミュージアムメッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」のもと、国宝1件、重要文化財13件をはじめとする約3,000件の収蔵品を核に多彩な企画展を展開し、日本人の“美への感性”を次世代に継承していく活動を続けています。

サントリー美術館

「高野山の名宝」展に約10万人が来場

2014年秋の「高野山開創1200年記念 高野山の名宝」展では、国宝「八大童子像」の露出展示などサントリー美術館ならではの展示方法が話題を呼び、約10万人が来場しました。本展は、高野山が平成27年（2015年）に開創1200年の節目を迎えることを記念して、高野山に伝わる至宝の数々を公開したもので、初来館者も多く、さまざまな世代の方に展覧会を楽しんでいただきました。

●サントリーホール ── 世界一美しい響きを実現

サントリーホールは、1986年に東京初のコンサート専用ホールとして開館しました。偉大な指揮者である故カラヤン氏に「音の宝石箱」と評されたヴィンヤード形式の大ホールと、ブルーローズ（小ホール）の2つのホールで、国内外の一流アーティストによる演奏が繰り広げられています。現在では、年間約550を超える公演に、60万人規模のお客様が来場されています。

サントリーホール

古代祝祭劇「太陽の記憶－卑弥呼」世界初演

2014年11月、洋楽器・和楽器・歌舞伎・舞踊といった多様なジャンルのコラボレーションによる舞台劇を世界で初めて上演されました。この企画は、時代やジャンル、様式の異なる伝統芸能が一堂に会して祝祭空間を創り出したい、という願いに基づき、中村福助（歌舞伎）、菅野由弘（作曲・指揮）、大谷康子（ヴァイオリン）、常磐津文字兵衛（三味線）四人の思いから生まれました。ダイナミックな祝祭空間が大きな注目を集めました。

●音楽事業 ── 音楽振興のための先進的な取り組み

日本における洋楽の発展に寄与するため、優れた業績をあげた個人または団体を顕彰する「サントリー音楽賞」や、チャレンジ精神に満ちた公演や新進作曲家を顕彰する「佐治敬三賞」「芥川作曲賞」をはじめ、「日本人作曲作品」の紹介やコンサート開催など幅広い活動を展開しています。1987年より毎夏に、最先端の音楽作品を紹介するシリーズ・コンサート「サマーフェスティバル」を開催し、映像・演劇・舞踊など異ジャンルと音楽の融合にも取り組んでいます。

「サントリー音楽賞」「佐治敬三賞」贈賞式

3つの音楽フェスティバルを開催

サントリーホールでは、初夏から秋にかけて3つの特色ある音楽フェスティバルを開催しています。約2カ月にわたって、世界のトップ・アーティストが集い、質の高い企画をお届けするクラシック音楽の祭典「サントリーホール フェスティバル」を秋に、そしてブルーローズ(小ホール)の親密な空間で、室内楽本来の楽しみを伝える「サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン」を2週間にわたり初夏に、そして夏には最先端の音楽を紹介する「サマーフェスティバル」を開催しています。同フェスティバルでは2013年から新たに、年毎のプロデューサーが現代の名曲の数々や多彩でチャレンジングなステージをお届けするシリーズをスタートさせました。

チェンバーミュージック・ガーデン

公益財団法人 サントリー文化財団

創業80周年の記念事業として、社会科学・人文科学分野の研究活動や、日本の地域文化の向上に貢献するために、1979年に設立。「サントリー学芸賞」や「サントリー地域文化賞」の贈呈、社会・人文科学や地域文化に関する研究や海外出版への助成、財団自ら実施する調査研究など、さまざまな活動に取り組んでいます。
また2012年からは研究助成プログラムを拡充し、以前から実施していた「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」に加えて、「地域文化に関するグループ研究助成」と「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」を新設しました。

「サントリー学芸賞」贈呈式

「サントリー地域文化賞」贈呈式

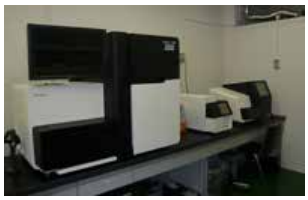
「災後」の文明　刊行

2011年の東日本大震災を機に、サントリー文化財団によって発足した「震災後の日本に関する研究会」(代表：御厨 貴)では、震災によって、日本社会の長い「戦後」に終止符が打たれ、新たに「災後」の時代が始まったのではないかとの認識のもと、これからの日本のあり方を考えてきました。その研究や調査・視察などの成果を受け、16人の気鋭の研究者が寄稿する『別冊アステイオン「災後」の文明』(発行 阪急コミュニケーションズ)を刊行しました。

公益財団法人 サントリー生命科学財団

サントリー生命科学財団は、国民の健康と栄養の向上を目的に、財団法人食品化学研究所として1946年に設立、1979年に財団法人サントリー生物有機科学研究所への名称変更を経て、生命科学と有機化学の融合領域である生物有機科学を基盤とする研究活動と学術振興を推進し、現在、第一線で活躍する大学教授などの科学人材を輩出しています。
有機分子の関わるさまざまな生命現象のメカニズムの解明を通して、生物種の多様性と共存の真髄に迫る独自の基礎研究を推進するとともに、国家プロジェクトへの参画や大学などとの協働により課題解決に取り組んでいます。また、大学などの研究を支援する解析センター事業、若手研究者への研究助成、大学院生への奨学金、学術集会助成などの研究奨励助成事業、ならびに博士客員研究員制度、大学などへの教育支援などの研究人材育成事業を行っています。

超電導核磁気共鳴分析装置


次世代シークエンサー

サントリー1万人の第九

ともに「歌う」喜びを広げる「サントリー1万人の第九」

1983年、大阪城ホールのオープニング記念イベントとしてスタートした「サントリー1万人の第九」。サントリーグループは、師走の風物詩である本コンサートに第1回から協賛しています。
1万人がともに「歌う」喜びやクラシック音楽の素晴らしさを感じられる機会として、小学生からシルバー世代まで幅広い年代の方々が公募により参加しています。また、東京・名古屋にも教室を設け、関西以外からの参加も増えてきています。
2011年・2012年・2013年は、東日本大震災復興支援活動の一環として、東北会場を設け、大阪城ホールと中継を結んで開催してきました。32回目を迎えた2014年は、岩手県・宮城県・福島県から150名を大阪城ホールへご招待し、10,150名で「歓喜の歌」を高らかに響かせました。

サントリー1万人の第九

スポーツ活動

サントリーグループは、企業スポーツへの参加や、スポーツ振興のための活動にも力を入れています。チーム活動では、ラグビーとバレーボールの自社チームを組織し、リーグ戦に参加しています。両チームとも競技の普及活動を重視し、オフシーズンを中心にラグビークリニック・バレーボールクリニックを積極的に開催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

自社チームを通じたスポーツの普及活動

ラグビー部「サントリーサンゴリアス」

社会人ラグビーチーム「サントリーサンゴリアス」は1980年に創部し、社会人ラグビーの全国リーグであるジャパンラグビートップリーグに加盟しています。
スポーツを通じた健全な心と体の育成を支援するため、ラグビーの普及活動を積極的に行っています。毎年開催される「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会」への特別協賛も活動の1つです。2014年9月から行われた第11回大会では、日本全国から多くの小学生が参加し、タグラグビーを通じてスポーツの意義や楽しさを学びました。また、サンゴリアスの選手が直接指導するラグビークリニックも積極的に開催し、2014年は約3,000名の子どもたちが参加しました。
なお、サンゴリアスは、社会貢献活動にも力を入れており、募金活動の協力呼びかけや、河川での清掃活動などを行う「イエロー フラッグ プロジェクト」を展開しているほか、東日本大震災被災地でのラグビークリニックなど継続的な復興支援活動を実施しています。

ラグビー部「サントリーサンゴリアス」

バレーボール部「サントリーサンバーズ」

社会人バレーボールチーム「サントリーサンバーズ」は1973年に創部し、社会人バレーボールの最高峰Vプレミアリーグに加盟しています。
スポーツの楽しさをより多くの方に知っていただくための活動として、バレーボールの技術指導や地域のバレーボール大会（2014年に小学生大会は9回目、中学生大会は36 回目、レディースカップは18回目を迎えました）の運営サポートなどの普及活動を行っています。またサンバーズの選手・スタッフが小中学生を中心に幅広い世代に直接指導するバレーボールクリニックには、2014年は約3,800名が参加しました。
なおサンバーズは社会貢献活動も積極的に行っており、高齢者向けのボールを使った運動指導、警察と連携した青少年非行防止の啓発や防犯運動のサポートなど、多様な活動に協力しているほか、東日本大震災復興支援活動として岩手県や宮城県の小中学生を対象にバレーボールクリニックを開催しました。

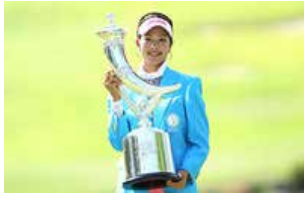
バレーボール部「サントリーサンバーズ」

地域を対象にしたバレーボールクリニック

スポーツイベントの開催

サントリーレディスオープンゴルフトーメント

毎年6月の第2週に神戸市で行われる日本女子プロゴルフ協会公認のサントリー主催女子ゴルフトーナメント。公式戦以外では珍しく、通常より1日長い4日間で争われることから、真の実力が問われるトーナメントとも言われています。サントリーグループがスポンサーとして応援している宮里藍選手や森田理香子選手をはじめ、国内外のトッププレイヤーが優勝を飾っています。また、インターナショナルオープントーナメントとして、未来を担う国内外のアマチュア選手に広く門戸を開き、若手育成を支援するとともに、チャリティ活動にも力を入れてきました。


森田 理香子選手(2013年大会優勝時)

サントリードリームマッチ

「サントリードリームマッチ」は、1995年から“夢や感動を伝えたい”との想いから開催しているイベントで、これまでに述べ89万人を超える野球好きの方々に、“夢の球宴”を楽しんでいただいています。2014年8月に東京ドームで開催された第19回大会では、昨年悲願の勝利を収めた田尾安志監督率いる「東北・ジャパン ヒーローズ」と、前回の雪辱を果たすべくリベンジに挑む山本浩二監督率いる「ザ・プレミアム・モルツ球団」が熱い戦いを繰り広げました。

当日の観客席の様子
（2014年開催時）

社会福祉

創業者・鳥井信治郎は「利益三分主義」を唱え、事業の利益を社会に還元することを信念としていました。特に、恵まれない境遇におかれた人たちへの慈善活動、社会福祉活動に積極的に取り組みました。サントリーグループは社会のニーズの変化を見据えながら、現在に至るまで社会貢献活動に継続して取り組んでいます。

社会福祉法人を通じた支援

社会福祉法人 邦寿会

1921年(大正10年)、サントリーの創業者・鳥井信治郎が、社会奉仕への強い信念のもと生活困窮者救済のため、大阪市愛隣地区に無料診療院「今宮診療院」を開設したことから「邦寿会」は始まります。「邦寿会」という名前は、鳥井信治郎の妻・邦(クニ)の名と当時の社名「寿屋」の「寿」をとって命名されました。戦後の混乱期には、戦災者・海外引揚者・身寄りのない方のために宿泊施設などを提供し、その施設は、母子寮・養護老人ホーム・保育園へと受け継がれていきました。社会福祉法人として活動を続け、高殿苑(特別養護老人ホーム・1974年開設)、どうみょうじ高殿苑(総合福祉施設・2008年開設)、旭区西部地域包括支援センター(2011年4月に大阪市から受託)、つぼみ保育園(1975年開設)を運営しています。
また、時代のニーズに応え、訪問介護・通所介護・居宅介護支援などの在宅介護サービスも力を入れています。

特別養護老人ホーム 高殿苑と
つぼみ保育園

総合福祉施設 どうみょうじ高殿苑

高殿苑とつぼみ保育園での交流

チャリティ活動の実施

チャリティ活動

サントリーグループでは、チャリティイベントを通じた地域貢献活動を継続して行っています。また、全国の各事業所では、夏および歳末助けあい運動における募金活動などに、積極的に参加しています。

●チャリティを通じた街づくりを支援

・サントリーレディスオープンゴルフトーナメント

サントリーレディスオープンゴルフトーナメントは、1990年の開始以来、チャリティ活動に力を入れ、開催地の神戸市に消防車両などを寄贈してきました。
2011年からは東日本大震災の被災地にチャリティ金を活用いただいており、2014年は、宮城県名取市に消防車両2台と携帯デジタル無線機・サーチライトなどの装備品(約1,300万円相当)を寄贈しました。

宮城県名取市に寄贈した消防車両

・サントリードリームマッチ2014

1995年から開催しているイベント「サントリードリームマッチ」では、ビールや飲料、グッズ、チャリティシートなどの売上金や出場選手サイン入りユニフォームのチャリティオークション収益の一部を活用し、プロ野球の現役選手やOBによる野球教室・キャッチボール教室の実施など東北の野球復興に役立てられました。またその他、東北在住の方を抽選で200名を無料で招待したり、東北の名産品を販売したりと東日本大震災の復興を応援しています。

東北から200名を招待

チャリティ金を活用した被災地での
キャッチボール教室

従業員のボランティア活動

サントリーグループは従業員が積極的に社会貢献活動に参加できるよう「ボランティア休暇制度」を設けています。2014年は40名がこの制度を利用し、さまざまな活動に参加しました。
また、社会福祉法人「邦寿会」が運営する高齢者福祉施設では、サントリーグループの従業員に窓拭きや草取りなどの作業への参加を募るとともに、新入社員には、研修の一環として、「邦寿会」でのボランティア活動に参加させています。
2014年からは、事業所内で昼休みや就業時間外に気軽に参加できるプログラムを新たに立ち上げ、従業員のボランティア活動を促進する取り組みも行っています。カンボジアなどに絵本や人形を届ける活動を計5回開催し、約130名の従業員が参加しました

「邦寿会」での清掃作業

社内でのボランティア体験

ボランティア活動「みんなで布チョッキン！」カンボジアの子どもたちを笑顔に

2014年に実施した社内ボランティア体験「みんなで布チョッキン！」は、従業員が持ち寄って裁断した布を、カンボジアで支援活動をするNPO法人に寄贈する取り組みです。布は現地で人形やボールに加工され、その作業費が保護者の貴重な収入になるとともに、遊具の少ない子どもたちの笑顔につながります。

写真提供／特定非営利活動法人
幼い難民を考える会

次世代育成

サントリーグループは、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため、音楽・美術・スポーツ・自然体験などを通じたさまざまな次世代育成活動に取り組んでいます。

芸術・文化を通じた支援

子どもたちが音楽・美術・スポーツ・環境教育などのさまざまな分野で、本物や一流に触れる機会を提供しています。少子化が進み、次世代育成の重要性が高まる中、これらの活動を強化し、子どもたちの豊かな個性・人格形成を支援しています。

サントリー美術館 親子ワークショップ

サントリーホール ── 次代の音楽家・聴衆を育成

サントリーホールでは、子どもたちに一流音楽家による本物の生演奏を聴いて感動を経験してほしい、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという考えのもと、さまざまな次世代育成プログラムを企画・運営しています。日本初の子どものためのオーケストラ定期演奏会「こども定期演奏会」の開催や、港区立の小学校4年生を対象とした「港区&サントリーホール Enjoy! Music プロジェクト」を2014年から継続的に行っています。またアメリカのカーネギーホールと連携し、3〜6歳の子どもたちが生演奏を間近で聴くプログラムなども開催してきました。
そのほかにも、若手演奏家をウィーン・フィルメンバーが直接指導する「ウィーン・フィル首席奏者によるマスタークラス」、演奏家や音楽業界での活躍を目指す若い学生を対象にした「レインボウ21」などのプログラムを実施しています。

●「港区&サントリーホール Enjoy! Music プロジェクト」をスタート

港区とサントリーホールは、同区内の小学校4年生を対象に音楽を中心とした継続的な芸術体験プログラムを2014年にスタートさせました。国際的に活躍する指揮者・大野和士氏が企画にかかわり、初年度はフランス国立リヨン歌劇管弦楽団を迎えて、「音楽と身体表現」をテーマに開催、19の小学校から約1,100名が参加しました。

●「こども定期演奏会」の開催

子どもたちが定期的にコンサートホールに行く習慣を身につけ、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという願いをこめて、2002年から「こども定期演奏会」を開催しています。これは、日本初の子どものためのオーケストラ定期演奏会です。聴くだけでなく参加できることが特徴で、チラシの絵やシーズンのテーマ曲も子どもたちから募集・採用しています。また、オーディションにより選ばれた子ども奏者がオーケストラの一員として演奏できるプログラムをはじめ、楽団員のレクチャーのもとで楽器に直接触れる企画や子どもレセプショニスト体験など、参加型企画の充実を図っています。

こども定期演奏会

●「レインボウ21」の開催

次代を担う音楽家や音楽業界で働くことを目指す学生たちが、テーマ性のある公演の企画から制作までを行うプログラム「レインボウ21」を開催しています。大学単位の公募で選ばれた参加者が、出演者や大学、サントリーホールと連携し、公演制作を主体的に行います。アートマネジメントを実地で体験できることがプログラム最大の特徴で、参加した多くの学生が、演奏家として、あるいは音楽業界に就職して活躍しています。2014年は、東京音楽大学、上野学園大学、国立音楽大学の3校が出演しました。さらに、海外の名門校を招聘し、サントリーホール・デビューの機会だけでなく日本の学生たちと交流する機会も提供する「レインボウ21インターナショナル」ではチューリッヒ芸術大学を招聘しました。

レインボウ21

サントリー美術館 ── 子どもたちが美術に親しむ機会を提供

いつでも子どものいる美術館を目標に、子どもたちが気軽に美に親しめるプログラムを提供し、楽しみながら美を愛する心を育む活動を幅広く展開しています。

●「エデュケーション・プログラム」の実施

サントリー美術館は、ミュージアム・メッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」のもと、次世代への教育普及活動に積極的に取り組んでいます。中学生以下は入館料無料のほか、鑑賞支援ツール「おもしろびじゅつ帖」を無料配布。お客様と美術館をつなぐ交流の場としてスタートした「エデュケーション・プログラム」では、親子ワークショップ、体験型ミニレクチャーを開催し、毎週土曜日にはスライドを使ったわかりやすい展示解説「フレンドリートーク」を実施しています。展覧会に関連する記念講演会や、特別公演なども開催し、プログラムに5回参加した子どもたちを「美の達人」として認定する制度を設けています。また、港区を中心とした小・中学校の児童・生徒の見学受け入れ、出張授業にも積極的に取り組んでいます。

学校団体の見学

フレンドリートーク

●「まるごといちにち　こどもびじゅつかん！」の開催

次世代教育普及活動の一環として、休館日の1日を小中学生とその保護者対象に開放し、さまざまな教育普及プログラムを行うイベント「まるごといちにち　こどもびじゅつかん！」を2014年夏に初めて開催しました。休館日の環境を活かして子どもたちがのびのびと楽しく過ごすことで、美術館に親しみをもつきっかけになってほしいという願いを込めて企画したこのイベントでは、クイズを解きながら探検気分で展覧会を鑑賞したり、気に入った作品をスケッチしたりできるワークシートを全員に配布したほか、対話型鑑賞ツアーや展覧会に関連したワークショップも行い、鑑賞と表現活動をつなげて体験できることを重視しました。また、お茶室「玄鳥庵」での点茶席体験や、畳を敷いたひと休みスペースなど、「生活の中の美」をテーマにしたサントリー美術館ならではの、日本の伝統文化にも触れていただきました。

今後も、子どもたちが気軽に参加できる多彩なイベントを開催し、美術のおもしろさを体験・体感・発見できる場を設けていきます。

気に入った作品をスケッチしながら鑑賞

スポーツクリニックの開催

サントリーグループは、スポーツを通じた子どもたちの健全な心と体の育成を支援するため、さまざまな活動を行っています。その一環として、サントリーのスポーツチームも競技の普及活動に取り組み、ラグビー部「サントリーサンゴリアス」・バレーボール部「サントリーサンバーズ」の選手が子どもたちを直接指導するクリニックを各地で開催しています。2014年には約6,000名の子どもたちが参加しました。その他、サンゴリアスは「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会」の運営サポートなど、子どもたちがラグビーに触れる様々な機会で協力を行っています。またサンバーズは小学校の授業で「体を動かす楽しさを知ってもらうためのボール遊び教室」の開催や、地域のバレーボール大会の運営サポートなどを実施しています。

ラグビークリニックの様子

バレーボールクリニックの様子

学校法人 雲雀丘学園を通じた支援

鳥井信治郎が1950年に学校法人 雲雀丘学園の初代理事長に就任して以降、同学園の幼稚園から高等学校までの一貫教育を支援しています。鳥井信治郎は「親孝行」の気持ちを大切にしており、「親孝行な人はどんなことでも立派にできます」が口癖でした。その創立精神は受け継がれ、学園では現在も、「親は子の成長を願い、子は親に感謝し尊敬するという、人としての自然なこころが基本となって、家庭の輪につながり、社会のために尽くす気持ちが湧き出る」と考え、人間教育に取り組んでいます。2008年からは「環境講座」の開講を支援し、現在は幼稚園、小学校の「花育（はないく）」、中学校、高校の校外活動・特別授業・講演と体系的に環境を学ぶプログラムを実施、その活動を支援しています。

植物を育てる「花育」

無人島での自然体験を支援

サントリーグループは香川県小豆郡にある無人島の余島（よしま）で1950年からキャンプ場を運営している公益財団法人 神戸YMCAと、2007年から協働で「余島プロジェクト」を推進しています。これは無人島ならではの豊かな自然環境の体験・体感を通じて子どもたちの夢や挑戦する気持ちを育むプロジェクトで、三浦豪太さんが参加する夏の「アドベンチャーキャンプ」等、年間を通じてさまざまなプログラムを企画・展開しています。2014年は約5,000名の子どもたちが余島を訪れました。

余島キャンプ

余島

被災地支援

東日本大震災復興支援

サントリーグループは、東日本大震災からの復興に向けて、継続的な支援を実施しています。震災直後の緊急支援として100万本のミネラルウォーター と被災3県に対して3億円の義捐金を贈呈。さらに2011年に40億円、2012年に20億円、2013年に25億円、2014年に20億円の追加拠出を決め、合計108億円の規模で復興支援に取り組んでいます。
太陽のように暖かな光が被災地にさんさんとふりそそぐようにとの思いを込めて、「サントリー東北サンさんプロジェクト」を立ち上げ、「漁業」「子ども」「チャレンジド・スポーツ」「文化・スポーツ」の分野を中心に、継続して支援活動に取り組んでいます。

「漁業」の早期復旧のため、漁船や漁具、定置網などの取得を支援するとともに、「子どもたち」の健やかな成長を応援するため、水産高校生などへの奨学金をはじめ、安心して学び遊べる場所づくり（学童保育施設など）や子ども支援NPOへの助成などを行っています。また、笑顔と元気をお届けするために、「文化・スポーツ」を通じたさまざまな活動も展開しています。
そして、2014年からは、2020年東京パラリンピックに一人でも多くの選手が被災地から出場して欲しいと願い、岩手県・宮城県・福島県を対象に、「チャレンジド・スポーツ（障がい者スポーツ）」を応援しています。アスリート個人や団体の活動を資金面から支援する「チャレンジド・アスリート奨励金」、子どもたちを中心に競技やアスリートに触れ合う機会を提供する「チャレンジド・スポーツアカデミー」、普及・強化や育成を支援する「チャレンジド・スポーツ育成サポート」を中心に、7年間にわたって、10億円の規模で展開していきます。

4つの取組支援を表す「サントリー東北サンさんプロジェクト」のマーク

漁業の復興支援

各県に漁業復興のための寄付金贈呈

県を通じて漁業の早期復興を支援するため、宮城県に30億円、岩手県に25億円の寄付金を贈呈

漁船取得支援

漁業者の負担を軽減するため、宮城県・岩手県を通じて、漁船の取得費用の一部を負担し、遠洋マグロ用・イカ釣り用などの大型漁船から小型漁船まで約１万隻の復旧を支援

漁船取得支援数
約10,000隻

漁具・漁業関連施設復旧支援

宮城県・岩手県への漁業復興のための寄付金は、定置網・養殖施設などの復旧にも活用

漁具支援数
約1,100件

定置網支援数
約400件

未来を担う子どもたちの支援

水産高校奨学金

水産高校7校の被災した生徒を対象に2012年から5年間、返還義務のない奨学金を支給

奨学金受給生（のべ人数）
約2,500名

学び遊べる場所づくり支援

特に厳しい環境に置かれている福島の子どもたちが安心して学び遊べるように、学童保育施設や指導員研修、園外保育などの支援を展開

学童保育施設建設数
3棟

石巻市子どもセンター
年間利用者数
約31,000名

サマーキャンプなど
屋外活動参加者数
約6,800名

福島子ども支援NPO助成

避難生活が長期化している福島の子どもたちをきめ細かく支援しているNPO団体への助成を3年間実施

子ども支援NPO助成団体
57団体

TOMODACHI サントリー音楽奨学金

米国大使館・米日カウンシル-ジャパンと協働で、米国の音楽大学に入学する被災地の学生を支援

寄付額
約100万ドル

チャレンジド・スポーツ支援

チャレンジド・スポーツアスリート奨励金

個人・団体への助成を通じ、チャレンジド・スポーツの振興や世界レベルの選手の育成・強化を支援

個人部門　48名

団体部門　15団体

チャレンジド・スポーツアカデミー

アスリートが被災地の学校を訪れて出張授業を行う「アスリート・ビジット」など、チャレンジド・スポーツ競技の体験会を開催

年間参加者数（予定）
約 2,500 名

チャレンジド・スポーツ育成サポート

チャレンジド・スポーツの普及および育成のため、公共施設の改修や競技用車椅子などの競技用具を寄贈。

競技用車椅子
18 台

STT 用卓球台
5 台

施設改修
1 ヶ所 他

文化・スポーツを通じた支援

ウィーン・フィル＆サントリー音楽復興基金

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とともに、音楽活動への助成や被災地でのコンサートを展開

「こどもたちのためのコンサート」来場者数
約5,000名

ウィーン・フィル＆サントリー
音楽復興祈念賞受賞活動
46団体

サントリー＆日本工芸会「おもしろびじゅつ教室 in 東北」

重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとした伝統工芸作家による出張授業を実施

「おもしろびじゅつ教室」
参加者数
約700名

サントリー美術館 体験型展覧会

仙台市でサントリー美術館の所蔵品による日本美術の参加・体験型展覧会「おもしろびじゅつワンダーランドin東北」を開催

来場者数
約17,000名

みちのくウィンドオーケストラ

被災地の中学校・高校の吹奏楽部生が練習を重ね、最後にはサントリーホールで公演するプロジェクトを実施

参加者数
350名

スポーツ教室開催

サントリースポーツチームによるバレーボール教室やラグビー教室、野球教室を被災地で毎年開催

スポーツ教室参加者数
約4,200名

文化・スポーツイベントに被災地の方を招待

「サントリー1万人の第九」などの文化イベントや「サントリードリームマッチ」・ラグビー国際試合などにご招待

文化イベント招待者数
約9,400名

スポーツイベント招待者数
約21,200名

災害被災地への支援

サントリーグループでは、国内外の大規模な災害時に義捐金の寄付や、飲料水の提供など、被災者および被災地に支援を行っています。

■主な義捐金の拠出

年	件名	寄付金額	寄付相手先	ニュースリリース
2010	2010ニュージーランド南島大地震	325万円	Cristchurch earthquake appeal fund	
2010	宮崎県における口蹄疫被害	1,000万円	宮崎県、 社会福祉法人宮崎県共同募金会	宮崎県における口蹄疫被害に対する義捐金について
2010	チリ大地震	500万円	チリ大使館	チリ大地震による被害に対する義捐金について
2010	ハイチ大地震	1,000万円	日本赤十字社	ハイチ大地震の被災地に対する義捐金について
2011	タイの洪水被害	約250万円	タイ王国政府	タイの洪水被害に対する支援について
2011	2011ニュージーランド南島大地震	620万円	ニュージーランド赤十字社	ニュージーランド地震に対する義捐金について
2011	豪州・クィーンズランド州における洪水被害	800万円	クィーンズランド州 The Premier's Disaster Relief Appeal	豪州・クィーンズランド州の洪水被害に対する義捐金について
2011～	東日本大震災	2011年　43億円 2012年　20億円 2013年　25億円 2014年　20億円 （累計108億円）	岩手県、宮城県、福島県、 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンほか	東日本大震災に対する義捐金について
2014	広島における土砂災害	100万円	中国新聞社会事業団	
2015	ネパール大地震	300万円	ネパール地震被災救済基金	

災害時に飲料を無料提供

サントリーフーズ（株）では「緊急時飲料提供ベンダー（自動販売機）」を開発し、設置を進めています。普段は通常の自動販売機同様に飲料を販売し、災害発生などの緊急時には無料で飲料を提供。電源が落ちた場合でも、簡単に飲料を取り出せます。2011年3月の東日本大震災時にも、多くの方々に活用いただきました。行政施設や病院などを中心に設置をすすめ、2014年末現在、業界最多の約15,000台が全国に設置されています。このタイプの自動販売機を、今後も積極的に投入していきます。

緊急時飲料提供ベンダー

地域貢献

工場周辺地域との共生

サントリーグループの主要工場では、地域住民の皆様との対話や、工場内に造成した公園・遊歩道を開放するなど、地域交流の場を提供しています。新たに工場を建設する際には、第三者による環境影響評価を行い、周辺住民の皆様にご理解いただくとともに、生物多機性の保全や工場内の緑化など自然との共生に努めています。

工場緑化の推進

サントリーグループの工場では、生物多様性にも配慮し、地域の環境と調和した緑化を進めており、緑化優良工場として各地で表彰を受けています。

■緑化優良工場等表彰（主催：日本緑化センター）

表彰年	表彰工場	表彰名
1987	利根川ビール工場	東京通商産業局長賞
1989	白州蒸溜所	内閣総理大臣賞
1993	梓の森工場	通商産業大臣賞
2002	山崎蒸溜所	経済産業大臣賞
2006	九州熊本工場	日本緑化センター会長賞
2008	高砂工場	日本緑化センター会長賞
2014	利根川ビール工場	経済産業大臣賞
2014	九州熊本工場	経済産業大臣賞
2014	榛名工場	日本緑化センター会長賞

■その他の緑化関連表彰

表彰年	表彰工場	表彰名	主催
1986	九州熊本工場	緑化優良工場九州経済産業局長表彰	九州経済産業局
1997	利根川ビール工場	全国植樹祭開催記念 環境緑化コンクール特別大賞	群馬県
2005	九州熊本工場	くまもと景観賞・地域景観賞	熊本県
2011	天然水奥大山ブナの森工場	日本緑化工学会賞（技術賞）	日本緑化工学会

工場見学を通じてお客様と対話

美味しさや安全へのこだわり、自然環境への配慮など、商品を通じた取り組みを多くの方に知っていただくため、ビール工場・ウイスキー蒸溜所・ワイナリー・天然水工場などで、工場見学や特別セミナーを実施しています。製造工程や歴史をわかりやすくご説明するほか、試飲などをお楽しみいただけます。また、ビールづくりのこだわりや、ウイスキーの楽しみ方などを学べる特別セミナーも開催しており、全国で年間約79万名のお客様にご来場いただいています。

天然水工場での工場見学

ビール工場での特別セミナー開催

全国の事業所で美化活動を実施

全国にあるサントリーグループの各事業所では、周辺の清掃をはじめ、自治体が主催するごみ拾いへの参加など、環境美化に取り組んでいます。2014年の「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」（2003年から協力・協賛）には、従業員および家族も参加し、住民や近隣企業の方々とともに約80kgのごみを回収しました。

東京ベイ・クリーンアップ大作戦

武蔵野ビール工場の従業員・家族による多摩川清掃

グループ会社の取り組み

「P LOVE GREEN」── (株)プロントコーポレーション

2010年4月に「お客様の精神(こころ)と肉体(からだ)に安らぎと喜びを与え、明日への創造を生み出すJUNCTIONとなる」という基本理念と、プロントのブランドカラーである「Green」という原点を見つめ直し「P LOVE GREEN宣言」を発表し、人と自然にやさしい、また、ワクワクするプロントらしい活動を「P LOVE GREEN」と名づけ、メニューやグッズ、店内環境、エンターテインメントの提供や社会貢献活動にまで広げています。
その1つの活動として、2010年度の東京都「緑の東京募金」への寄付に始まり、東日本大震災以降は被災地の緑化事業にも寄付しており、2014年12月末で3,933万3,608円を寄付し、2012年および2015年には、農林水産大臣感謝状をいただきました。加えて、東日本大震災で被災した防災林などの植樹活動を現地の子どもたちとともに実施しています。

植樹の様子

霧多布湿原ナショナルトラストを支援 ── ハーゲンダッツ・ジャパン(株)

原料の牛乳の生産地である北海道根釧地区において、2007年から厚岸郡浜中町の霧多布湿原ナショナルトラストへの支援を行っています。霧多布湿原は国内では3番目に大きな湿原で、1993年にはラムサール条約にも登録されています。資金面の支援に加え、毎年当社従業員が地元の方々とともに、木道の補修をするなど湿原の景観保全のボランティア活動を行っています。このボランティア活動は2014年で8回目となり、23名の従業員が参加しました。この活動は、引き続き毎年実施していく予定です。

木道補修風景(2014年)

花を通して地域の活性化を支援 ── サントリーフラワーズ(株)

「地域に花のあるくらし」を多くの方に体験していただくため、公園などに花苗を提供しています。2012年からは「赤い花で日本を元気に!」をスローガンに、全国各地の公園や公共施設などに花を植え、コミュニティの活性化にも役立てていただく活動「赤い花プロジェクト」を全国で展開。「サフィニア・レッド」の花苗を全国各地の団体へ寄贈しました。2015年からは活動の輪をさらに広げて「大きな花プロジェクト」として続けていきます。

「赤い花プロジェクト」の植栽